

中部教育事務所だより

発行所 群馬県教育委員会事務局
中部教育事務所
発行人 加藤 隆浩
発行日 令和8年1月13日
〒371-0051 前橋市上細井町2142-1
Tel(027)232-6511

令和7年度 道徳教育総合支援事業(文部科学省・群馬県教育委員会委託) 研究指定校研究発表会 榛東村立榛東中学校

文部科学省「よりよい生き方を実践する力を育む道徳教育の推進事業」及び群馬県教育委員会「道徳教育総合支援事業」の研究指定校である榛東村立榛東中学校を会場として、10月24日(金)に公開授業・授業研究会を開催しました。榛東中学校では、道徳教育の質の向上とその一層の充実を図り、研究主題を「考えをつなぎ合わせ、思考を深める授業の創造」と設定し、対話を軸とした学び合いの充実を図りながら研究を進めています。

当日は、県内外から71名の参加者が集まり、3授業を参観し、授業研究会で熱心な議論を展開しました。これまで榛東村全体で幼・小・中と築いてきた温かい人間関係、学級総合に取り組む中で大事にしてきた地域とのつながり、学年教員全員で取り組む「特別の教科 道徳」の実践等の成果が現れ、どの授業でも生徒たちが真剣に語り合う姿が見られました。

全体会では、元文部科学省視学官の嶋野道弘様をお招きし、子供の学びの姿を生かした授業改善の視点からのご講話をいただきました。以下に、各授業実践についての紹介をさせていただきます。

1学年 「自分の行動に責任を」 A(1) 自主、自律、自由と責任

教材名「裏庭での出来事」(新しい道徳1 東京書籍)

八木 夏海 教諭



自身の失敗をごまかしてしまった主人公の葛藤に共感したり、真実を話そうと決心した際の気持ちを想像したりしながら、自らの行動の結果に責任を持つことの大切さについて考えました。心情メーターにより数値化された思いを基に、微妙な心の動きや葛藤の理由を、自分の経験と関わらせながら具体化し、本音で語り合う姿が見られました。話し合い活動を経て、いろいろな友達の「納得解」に触れる中で、行動の結果に責任を持つことが、自信や信用につながるのだということについて理解を深めることができました。

2学年 「ほかの人の立場」 B(9) 相互理解、寛容

教材名「他人の靴を履いてみる」(あすを生きる2 日本文教出版)

山田 麻子 教諭

ふとしたことで口論をした2人の登場人物の話を基に、他者と関わるよさについて考えました。2人はどうすればよかったのかという問いに、綺麗にまとまった言葉で返す生徒たち。それに対し教師が「そんなことを実際に言えるのか」と切り返したことで彼らの本音が次々と引き出されました。心情メーターで数値化された互いの思いを比べつつ、他者と関わるよさについて未来志向で対話したことで、一人一人が前向きな捉えをし「他人の靴を履いてみるということは…」という言葉とともに深い価値理解へとつながることができました。



3学年 「いじめのない社会の実現」 C(11) 公正、公平、社会正義

教材名「卒業文集最後の二行」(あすを生きる3 日本文教出版)

野村 真也 教諭



「いじめを許さない集団や社会を自分たちの手で実現するために必要なことは何だろうか？」授業では野村先生の発問に、生徒がいじめをなくすために必要な考え方について多面的・多角的に議論しました。『卒業文集最後の二行』を題材に、教師がファシリテーターとして生徒の学びの伴走者となり、生徒が他者理解・価値理解を深め、交流する姿がたくさん見られました。考えのキーワード化やホワイトボードを使った学び合いの可視化等、生徒が本音を語りたくなるような交流の手立てやねらいに迫る効果的な問い返しが素晴らしかったです。